

事業報告

講座名	いきいき環境塾 エコっこスクール2009		
日時	平成21年7月27日(月)		
場所	秋吉台エコ・ミュージアム ほか	参加者数	9人

1泊2日の見学・体験学習を通じて、自分たちが環境に与えている影響に気づき、考え、調べ、家庭や地域で環境に配慮した行動をとれるようになることを目的として開催したが、7月21日の豪雨の影響でセミナーパークを含め山口市内の多くが断水し、宿泊が不可能となり、やむを得ず27日(月)の一日に変更して実施した。また、交通事情等により参加者は9名であった。

1 日程

平成21年7月27日(月) 秋吉台エコ・ミュージアム ほか

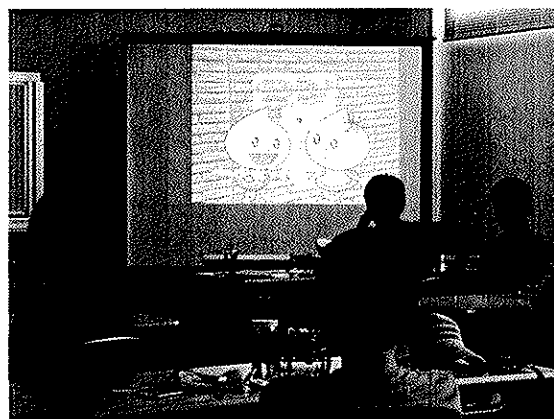
2 活動内容

(1) 山口合同ガス山口支店見学

山口市にある山口合同ガス山口支店を訪問し、同社の環境への取組や、燃料電池に関して学んだ。

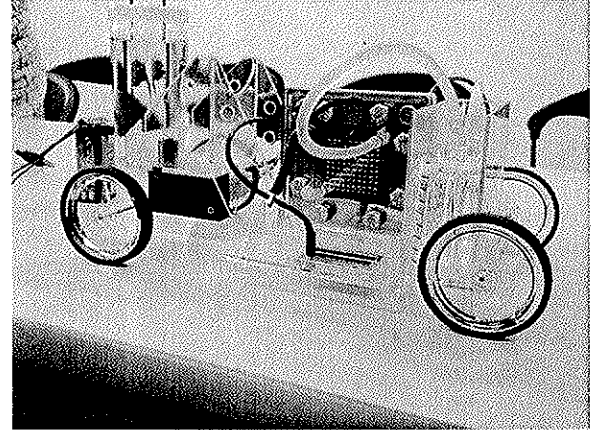
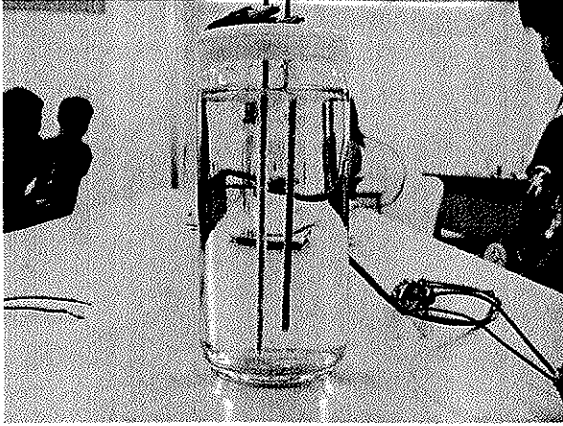
○ 環境への取り組み

新設された「体験ハウスひまわり館」で、一般公開前にもかかわらずエコっこスクールに公開され、ガスと快適な住まいづくりについて説明があった。続いて、スライド等をまじえながら天然ガスの生成、分布、採取、運搬等について、また、エネルギーの使い方、地球温暖化防止に対する天然ガスの役割、利点等について説明があった。



○ 実験

燃料電池の仕組みや天然ガスと燃料電池について話があった後、水の電気分解とその逆の反応による電気の発生について実験を行った。燃料電池車の実験については子ども達は特に興味を持っていた。最後に、天然ガスは超低温で液化して海外から運搬していることから超低温についての実験(体験)があった。



(2) 秋吉台エコ・ミュージアム、大正洞見学

秋吉台エコ・ミュージアムと大正洞で、自然を保全していくことの大切さを、また、そのための関係者の努力について学んだ。

○ 施設内の展示等の見学、説明

大正洞の成り立ちや、洞窟内の生物の特性等について

・洞くつ内の生き物は光が届かない中で生きている。目が退化し、代わりに触覚が長い、手が多いなどの特徴があり、また色は白く無色透明のものもある。食べ物が少ないので、あまり食べなくても生きていけるように体が小さいものが多い。



○ 体感シアター

秋吉台の四季の映像と、草原を守るための人々の取り組み

・地元の人やたくさんのボランティアが協力して、年1回山焼きを行うことで草原を維持している。山焼きの前には、火道切りという、森林に火が燃え広がるのを防ぐために草を刈り取って防火帯を作る重要な作業がある

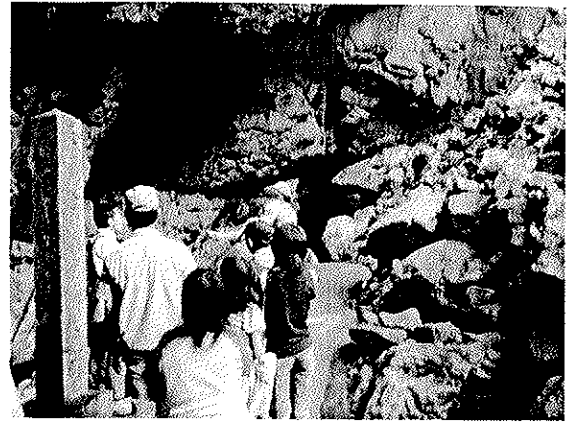
○ 大正洞

大正洞の入り口付近で、写真を見せながら、ここは1週間前（7月21日）の豪雨の時には地下水位が上昇し、案内板の高さ（約1m）まで浸かった、との話があり、子ども達は驚いていた。見学当日も景清洞から大正洞に注ぐ川は急な流れであった。

洞くつ内は16度であり、一年を通して温度が一定。また、コウモリの群生、子育て、フン、鳴き声等に参加者は興味を示していた。シコクヨコエビを見ることもできた。



子ども達は地下水の冷たさ、洞内の岩の冷たさ、コウモリのフンの色、臭い等手で触れて、実感していた。



(まとめ)

身近な家庭や地域、学校で、環境を守るためにどのようなことが出来るのか、なにをやればいいのか、について考え行動するようになることを目的として開催したもので、豪雨の影響で一日だけの日程になり、参加者も少なかったことは、残念であった。このことは子ども達のアンケートからも読み取れた。

反面、参加者が少なかったことが、ひとり一人に十分目が届き、把握でき、また、実験もひとり一人に器具等が行き渡り、納得できるまで行える等の効果が見られた。